

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 5 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	平成 28 年 10 月 28 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時 35 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 市議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、佐藤祐司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員、中川昇委員、吉田悦之委員 事 務 局：竹上市長、小林副市長、山路副市長、加藤経営企画部長、橋爪経営企画部次長、榊原経営企画課長、川上政策経営係長
5. 公開及び非公開	一部非公開
6. 傍 聴 者 数	3 人（内、報道関係 1 社）
7. 担 当	松阪市経営企画部経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-26-4030 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 事項、要旨は別紙のとおり

第5回 松阪市政推進会議 会議録（要旨）

1. 日 時 平成28年10月28日（金） 午後1時30分～午後3時35分
 2. 場 所 松阪市役所 議会棟2階 第3・4委員会室
 3. 出席者 村林守委員、佐藤祐司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 梅村光久委員、中川昇委員、吉田悦之委員

〔事務局〕竹上市長、小林副市長、山路副市長、加藤経営企画部長兼市長補佐官、橋爪経営企画部次長兼行政改革特命担当、榊原経営企画部経営企画課長、川上経営企画部経営企画課政策経営係長

1 市長あいさつ

竹上市長あいさつ

前回、総合計画についてさまざまな議論をいただいたが、本日のテーマは先を見据えた議論になる。これから人口減少が目の前に来ている。市政やまちづくりについて、地方都市がまちづくりを考えていくと、4つの数字に集約される気がする。人口、予算、税収、GDP（市の総生産額）、この4つの数字をどういうふうにしていくか、これからの市政運営では大切になると思う。経営者であれば、人口は顧客、税収は売上、GDPは総売上高になる。その中で、どれを重視する必要があるのか、それをつなげていくために避けて通れないのが、スクラップ&ビルドである。何に重きを置き、何を壊していくかという部分をご議論いただければと思う。廃止すべき事業、新たな事業を選択していく時期に来ていると思う。忌憚のないご意見をいただきたい。

※松阪市政推進会議規則第5条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長）事項書では、平成29年度の重点事業となっている。市では、実施計画の策定や予算編成が進んでいるが、市長のあいさつにもあったとおり、どこに重点を置くのか、また思い切ったスクラップできる事業について、忌憚のない意見をいただきたいとのことである。市の決まりとして、会議は原則公開である。ただし、審議する内容が非公開情報に該当する場合や、審議、検討又は協議する内容を公にすることにより、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ、または、特定の者に不当に利益や不利益を及ぼすおそれがある場合に限り、非公開とすることもできる。

今回は、市の総合計画について、市民の皆さんにも並行して意見をきいているところであり、公開としたが、本日はいかがでしたらよいか。

思い切ってスクラップしていく事業についての議論が予想され、場合によっては、非公開情報もでる可能性も考えられる。前々回までは、個人情報や法人情報、また、具体的な提案の中に未成熟なものがあり、市民に混乱を生じさせるおそれがあるため、非公開としてきた。

委員) 前回もそうであったが、つつい個人情報が出てしまう。自由に発言ができるように、できたら非公開でお願いしたい。

会長) 非公開で開催させていただいてよろしいか。

(異議なし)

会長) 本日は非公開で開催するが、意見交換の内容を秘密にする趣旨ではないので、非公開情報を除いて要旨を公開させていただく。

2 協議事項

1) 平成 29 年度重点事業について

事務局より説明。

現在策定を進めている実施計画は、新総合計画の基本構想に示された 10 年後の将来像の実現に向けて、基本計画を展開していくための具体的な事業をまとめたものである。計画期間は、基本計画の期間に合わせて平成 29 年度～平成 31 年度までの 3 年間としているが、毎年度見直しを行い、新たな事業の追加や計画の見直しに対応していくこととしている。

新総合計画では、社会情勢の変化に対応した行政運営を進めるため、毎年度の実施計画において重点プロジェクトを位置づけ、予算や人員の重点配分をしていくこととしている。

各部署から新総合計画を推進していくために提案された主な事業や、市長の公約を実現するための事業などを重点プロジェクトとし、実施計画に掲載していく予定である。

松阪市の政策について、長期的な視点をもって自由闊達な、そして率直なご意見等をいただきたい。

会長) ここで、竹上市長より、今後重点的に進めていこうとしている事業や重点を置きたい事業、あるいは、事業の見直しなど、思いをお聞きしたい。

市長) 新総合計画については、前回少し説明させていただいたが、重点プロジェクトを置くことを考えている。公約に「子育て一番宣言」を掲げており、特に、子育て支援に重点を置きたいと考えている。保育士の確保や三世同居・近居への取組も考えている。生き方を選択する時代になってきている。保育施設の充実も影響しているが、自

分で子育てする時間が減ってきている。もう一つは、産業を支援していく取組を考えている。働く場がなければ、地域に根付かない。さらに、基幹産業である林業を支援していく取組も検討している。子育てと雇用を両輪に考えている。

すべてを拡充するのは難しい。何をスクラップするのか、忌憚のないご意見をいただければと思う。

会長) 本日は、子育てと雇用、事業の取捨選択についての議論となる。発言をお願いする。

委員) 「病児・病後児保育」とはどんな事業か。保育園で預かっているときに、保育園から病院に連れて行ってくれるのか。

事務局) 病気の回復期に至らない場合、また、回復期であって集団保育が受けられない児童を預かる制度である。事前に診断を受けた場合に限り、予約して預かっていただいている。

市長) 保護者が、保育園に引き取りに行く現状をなんとかしたいと考えている。責任問題もあるが、市民ニーズは高い。

委員) NPO がサポートして、保育園から病院への搬送をしているところもある。知識がある方で送迎してもらえればシステムができれば良いと思う。

委員) 子育てを経験したお年寄りにお願いできないものか。専門家が一人いれば、お年寄りでもサポートできるのではないか。

委員) 保護者が同伴することで、責任問題が解決する。責任を持てる方が代行するシステムが必要である。

委員) 保護者には、できれば3年間は子育てを経験してほしい。

委員) 悩ましいところではある。社会と家庭、どちらからもサポートが必要である。

委員) 育児休暇制度は、使う人もいれば使わない人もいる。選択の幅があればいいのではないか。制度を導入している企業が増えることで、子育て世代に理解のある地域となるのではないか。制度がある企業を紹介や表彰するなど、啓発する方法もある。あくまで、松阪市を活性化するためのプランであり、良いまちであるということをもPRするパーツであると思う。

委員) 仕事に戻らなければと焦ったり、世帯の収入も少なくなるので、働かざるをえない母親もいる。社会に焦らされている。子どもとの関係もおかしくなっている。子育て支援に対して、松阪市がどう打ち出していくのか。保育の条件をアピールして働

く女性をサポートしていく必要があるのではないかと。どのようなサポートがあるのか知らない女性もいる。

委員) 三世代同居・近居への取組について、松阪市が推奨することは、子どもは身内で育てるようにと言っているように感じる。意味をちゃんと伝える必要があるのではないかと。

委員) 生き方の選択を増やす結果だと思う。仕事を優先するのか、子育てを優先するのか、制度があれば保護者が選択できるようになる。生き方が選択できるまちに魅力を感じる。

委員) 三世代同居・近居の取組は、お年寄りにも、子育て世代にも良い面がでてくると思う。

委員) 人口が減少する中で、子育てしやすいまちをめざし、子育てするなら松阪と言われたいまちになってほしい。それには、教育と医療への予算配分が必要になる。個々のやり方に松阪市の特徴を出すべきである。

委員) 小学校の統廃合は難しいのか。

市長) アンケート調査を実施しているところである。

委員) 地域は反対すると思う。休園や休校を民間に任せてはどうか。

市長) 公共施設や公共用地の有効活用を考えていきたい。

委員) 飯南や飯高地域の将来をどう考えているのか。

市長) 「飯高道の駅」には年間約 36 万人の観光客が訪れている。まだまだ発展する可能性はあると思っている。

委員) 事業を廃止することは難しいと思う。行政活動を進めていく上での最終ゴールは、目指すべき将来像である。将来像の達成に貢献しない事業が、廃止すべき事業であるとする。重点事業へのこだわりは大切だが、約 1,100 事業を我々が全部見通すことは不可能で、目立つ事業について議論してしまう。そんな事業にフォーカスすると、目立たない事業に焦点が当たらず、市全体としてただ模様の評価になってしまう。一番よく状況を把握しているのは、現場に近い市の職員である。もちろん、第三者の客観的な視点も必要だが、一番わかっている人たちの評価を事業の取捨選択に生かせることが早道であるとする。今回の総合計画について、松阪らしさを念頭に置いて、重点事業の設定や横断的な事業展開など良い点がある。一番の特徴は、各施策に数値目標を設定したこと。批判もあるかも知れないが、すべての事業に数値目標を設定

した。その数値を使い、定量評価につなげられないか。そうすることで、個別の事業、それを束ねる施策や政策が、ゴールである将来像を実現するにあたって、どれだけ貢献しているか、寄与しているのかをはかって取捨選択につなげていきたいと考えている。総合計画では、行政活動の評価について明確に打ち出しているので、評価機関を設置しスクラップ&ビルドにつなげてはどうか。行政事業は一度始めるとやめられない。やめるときにかける力は大きく、事業をやめるには客観的な理由付けが必要で、代替案が必要になるのではないか。

市長) 就任して1年が経過し、市役所の仕事には評価がないことに気が付いた。予算や実施計画の策定など、計画に多くの時間を費やし実行に移る。各部長が政策宣言を出しており、内部のチェックは行っているが、外部評価がない。外部評価を構築していきたい。

委員) 行政を企業として考えると、売り上げ=収入、行政の場合は市税に当たる。200億円の市税に対して、600億円の歳出がある。残りの400億円は依存財源となる。企業であれば、収入を増やすこと、支出を減らすことを考える。行政の場合は、歳出を減らすのは極めて難しい。いかに歳出を減らせるのか、職員に指示してもいいと思う。減らすことを評価してもいい。また一方では、税収を増やすにはGDPを拡大することが必要となる。6,000億円のGDPを1兆円や2兆円にできれば税収は上がる。21世紀型の豪商のまちをめざし、生き残るために経済力をつける必要がある。経済力を拡大するために、まちをあげて産業を活性化させる必要がある。松阪市の企業も上場してほしい。上場企業をたくさん作ることが、若い人を集める基盤となる。松阪市のGDPを上げることが数値目標となるのではないか。

委員) PDCAサイクルに乗せるには、チェックしたものをプランへつなげることになる。行政では1年後になるが、ぜひ取り組んでもらいたい。また、行政は効率を求めてはいけな事業もある。そうでなければ、全部を民間へアウトソーシングできるはず。それができないということは、必要経費の1/3しか稼げないのに、いかに中身を充実させるか、どれを捨ててどれを入れるか、そこに注力しないと現実的ではない話になる。

市長) 行政は2年周期だと理解している。市内で職員が一番多いのは市役所である。大きな組織を動かすには、2年サイクルが妥当だと感じている。ただ、きっちりと動いていない現状があるので、動かしていきたい。

委員) 歳出を減らすために、公共サービスを産業化していく。歳出を削減しつつ、民間の収益を上げる。経済と財政を両立させる発想である。また、1,000億円の借金をどう返していくのか。公共事業を行政でまかなう前提に立つと、未来永劫返せない。予算を削ればお叱りを受ける。そういう中で、行政に全部任せるのではなく、財政削減しながら税収増をめざすため、公的な部分もビジネス化するなど、ダイナミズムが必要ではないか。

委員) 住民協議会には期待している。地域での支え合いが大切になると思う。子育て中の創業セミナーに関わったが、思った以上に評判が良かった。雇われるという環境ではなく、タイムカードのない働き方に自由度が増す。創業と子育ての両立を。

委員) 住民協議会と協働し、歳出の削減につなげてほしい。

委員) 産業を支援していく取組とは、どのようなことを行っていくのか。

市長) 中小企業とのマッチング、マーケティングの手伝いなどを考えている。

委員) 創業と起業は難しい。既存の企業を成長させながら長持ちさせ、上場させる仕組みづくりが必要である。ビジネススクールの開校など、環境の整備も大切になる。そうすることで、他のまちにない産業やビジネスも活性化でき、人が移住してくるので、子育て支援もできる体制を整えていく。

委員) 子育てイベントを開催すると、木のおもちゃが売れる。子育てと雇用に大きな柱があるが、子育てとビジネスをからめて、健康センター“はるる”、松阪版ネウボラ、林業をマッチングさせて、「木育」ができないか。三重県産の木材を使うことで、林材業や製材業、あるいは観光業へのアプローチができないか。

会長) 商工会議所が主催する松阪ルネサンス懇話会で、地方創生に関わる議論を重ねてきている。議論が煮詰まってきているが、その懇談会の考えをこの市政推進会議でも共有したいと考えている。1月の市政推進会議で提案したい。

3 その他

第6回松阪市政推進会議については日程調整する。

《午後3時35分 終了》